

## 企画展「岡本太郎と太陽の塔—万国博に賭けたもの」



01.岡本太郎と「太陽の塔」原型、1969年

「近代主義に挑む。何千年何万年前のもの、人間の原点に帰るもの。人の眼や基準を気にしないで、あの太陽の塔を作ったんだ。」\*

1970年、大阪にて、「人類の進歩と調和」をテーマとする日本万国博覧会が開催されました。岡本太郎が会場中心に据えた「太陽の塔」は、建設当時、モダニズムと相容れない独特の外観で賛否を巻き起こしました。また、内側の構成も「人類の進歩と調和」に異議を唱える岡本の思想が大いに反映されたものでした。

塔の地下空間は「過去・根源の世界」を表現するためにいくつかのゾーンに分かれていました。その1つ、「いのり」の空間では、人類の心の奥深くに通底するものとして、世界各地から収集された仮面や神像などの民族資料が展示されました。原初的で神聖な祭壇を想起させるこの展示プランも、岡本太郎の発案です。彼はパリで暮らした20代にパリ大学で民族学を学び、人類博物館の空間でマルセル・モースの教えを受けました。また帰国後も、日本各地の祭礼・神事の取材と執筆活動によって思索を続けました。

本展は、民族学を源泉とし、国内の取材旅行を通して形成された岡本の思想から「太陽の塔」を探るいわば「入門編」の展覧会です。彼が縄文の発見後、フィールドワークで撮影した写真をご紹介しますほか、「太陽の塔」の制作記録や同時期の作品を通して塔の内外が形作られた過程をたどります。また、国内外の仮面や神像等を展示し、岡本のいう「今日の文明が失ってしまった人間の原点」\*に迫ります。

岡本は、ただの「お祭り」と、人間の誇りと生きる喜びを爆発させる神聖な「祭り」を区別し、万国博は後者であるべきと考えました。「太陽の塔」を万国博の中心に据えることで「祭り」の実現に賭けた岡本の挑戦と、そこに至るまでの道程を、会場にて是非ご覧ください。

\*岡本太郎『にらめっこ問答』集英社、1980年

## 開催概要

会 期 2025年4月26日(土)～7月6日(日)

会 場 川崎市岡本太郎美術館 企画展示室

休 館 日 月曜日(4月28日、5月5日を除く)、5月7日(水)、5月8日(木)

観 覧 料 一般 900(720)円、高・大学生・65歳以上 700(560)円、中学生以下は無料

※( )内は20名以上の団体料金

主 催 川崎市岡本太郎美術館

協 力 日本工業大学 杉森研究室、島田安彦コレクション

※会期中展示替えがあります。(前期:4月26日(土)～6月1日(日)／後期:6月3日(火)～7月6日(日))

同時開催 常設展「オカモト・ア・ラ・モード おしゃれの法則」 2025年4月17日(木)～7月13日(日)

## みどころ

- 岡本太郎が太陽の塔の模型を作る様子や、実際の建設の過程など、当館が所蔵する記録写真をこれまであまりご紹介できなかったものも含め多数展示します。
- 世界各国の仮面や神像などの民族資料を展示し、岡本太郎が太陽の塔の地下空間で表現しようとした「人間の原点」に迫ります。本展では、昭和女子大学光葉博物館と武蔵野美術大学 美術館・図書館 民俗資料室から資料をお借ります。
- 太陽の塔の1970年当時の地下空間と大屋根の展示を、再現映像で甦らせます。  
日本工業大学の歴代の学生たちが7年間にわたり制作・改良を続けてきたVR作品を本展のために映像(2D)化し、展示室にて放映します。

## 展示構成

- 第1章 民族学との出会い ―パリ時代の岡本太郎
- 第2章 人間の原点を求めて ―取材旅行と執筆活動
- 第3章 万国博前夜 ―《明日の神話》と《太陽の塔》
- 第4章 太陽の塔の地下空間
- 第5章 万国博が残したもの

## 主な出品作品

- ・岡本太郎作品:油彩、彫刻、ドローイング、岡本太郎撮影写真 他 約130点
- ・「太陽の塔」制作・建設過程記録などの写真資料、万国博関連資料など
- ・民族資料(昭和女子大学光葉博物館および武蔵野美術大学 美術館・図書館 民俗資料室所蔵) 約40点
- ・「甦るVR太陽の塔」映像(2D)(日本工業大学 太陽の塔プロジェクトチーム+杉森研究室制作)

## 関連イベント

### ●太陽の塔・ふしぎ発見！スタンプラリー

小さい子ども向けのスタンプラリー型ワークシートを配布します。

「太陽の塔」のお腹の中には不思議がいっぱいです。展示室内のスタンプを押して「太陽の塔」をもっと知ろう！

配付期間 4月26日(土)～7月6日(日)

会場 企画展示室

料金 無料(要観覧料)

対象 どなたでも



「太陽の塔 ふしぎ発見！」  
ワークシート

### ●担当学芸員によるギャラリートーク

日時 6月1日(日)・28(土) 14:00～

会場 企画展示室

料金 無料(要観覧料)

申込 不要。開始5分前に企画展示室にお集りください。



その他、関連イベントは当館ホームページで随時お知らせします。

<https://www.taromuseum.jp>



02.《太陽の塔》1970年



03.《太陽の塔》1970年

## お問い合わせ

川崎市岡本太郎美術館 展覧会担当:喜多、佐藤 広報担当:山内([pr@taromuseum.jp](mailto:pr@taromuseum.jp))

〒214-0032 神奈川県川崎市多摩区柘形 7-1-5 生田緑地内

TEL:044-900-9898 / FAX:044-900-9966

「岡本太郎と太陽の塔—万国博に賭けたもの」



04.《マスク》1959年



05.《千手》1965年



06.《万博の鍵》1970年



07.《明日の神話》1968年



08.《樹霊 I》1970年



09.《ノン》1970年



10.《マスク》1970年



11.《反世界》1964年



12.岡本太郎撮影  
土偶(神奈川県横浜市出土)  
1956年



13. 岡本太郎撮影  
なまはげ 男鹿市芦沢  
1957年



14.岡本太郎撮影  
齋場御嶽  
1959年



15.岡本太郎撮影  
コアトリクエ  
(メキシコ国立人類博物館)  
1967年